

キャッシュフロー計算書の見方

岡山 正雄

キャッシュフロー計算書とは

今日の会計では、原則的に現金の入出時点ではなく、収益や費用が発生した時点で計上する発生主義を採っている。発生主義は期中に発生した収益と費用を対応させることには役立つが、企業の手元にある資金^(注)を把握できない。そのため毎期利益を上げているような企業が売掛金の膨張や回収不能で、資金不足に陥り黒字倒産することが起こる。そこで、企業が資金をどの部門でどれだけ生み出したかを把握するために考案されたものが、キャッシュフロー(以下、CF という)計算書である。CF 計算書は現在、金融商品取引法で上場企業が作成すべき財務諸表の1つと定められている。

^(注)CF 計算書の資金とは、現金及び現金同等物のごとく、現金に加え、普通預貯金や満期まで3ヵ月以内の定期預貯金が含まれる。

CF 計算書の中身

CF 計算書の表記法には、直接法と間接法があるが、多くの企業は間接法を採用している。間接法は当期純利益に加減を行って、CF を求める方法である。CF 計算書は大きく、営業活動による CF、投資活動による CF、財務活動による CF から成る。

は企業の営業活動によって発生した資金の増減である。例えば売掛金の増加は、売上として計上されているものの資金化されていないので、CF の減少要因、買掛金の増加は費用として計上しているものの、手元に資金が残

っているので増加要因になる。

は設備投資などによる CF の流れを記載する。例えば土地などの固定資産の増加は、資金が企業から流出するので、CF の減少要因になる。

は負債や純資産の増減である。例えば借入を行ったときは、資金が企業に流入するので CF の増加要因である。

CF 計算書で資金繰りが分かる

CF 計算書を見ると、企業の1年間の資金繰りの様子が見て取れる。

下図には A 社の CF 計算書を示した。まず見るのは営業 CF である。A 社はプラスなので問題ないが、マイナスの場合は、企業が営業活動で資金を生み出さなかったことを意味し、何期か続くようであれば、企業活動の継続性が危惧される。

次に投資 CF だが、これは正負で良し悪しを判断できない。例えば投資 CF がマイナスだとしても、成長中の企業で積極的に設備投資しているのか、過剰投資なのか分からない。投資 CF については利益水準や固定長期適合率といった指標で、適正規模の投資なのか判断する必要がある。

最後に財務 CF だが、ここは営業 CF や投資 CF の過不足をどのように調達したか見るのに役立つ。A 社の場合は営業 CF で生じた資金を債務等の返済と設備投資に充てていることが分かる。

図: 上場企業A社のCF計算書(抄録)

	(単位: 百万円)
営業活動によるキャッシュフロー	5,843
投資活動によるキャッシュフロー	3,967
財務活動によるキャッシュフロー	1,592
現金及び現金同等物の増減額	283